

浅数興産有限公司
リハビリデイサロン満天
令和3年度 第5回 運営推進会議

※この度、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、運営推進会議を開催する事が困難となりました。つきましては書面にてのご報告とさせていただきます。

1. 運営推進会議 主旨説明
2. リハビリデイサロン満天 運営活動報告
3. 事故事例報告
4. 新型コロナウイルス感染症予防対策
5. 事例発表
6. 御意見、御要望等 意見交換

1. 運営推進会議 主旨説明

運営推進会議とは、介護保険法上の地域密着型サービスの中に設置されている事となっています。

(1) 地域密着サービスについて

平成 28 年 4 月より 高齢者が要介護状態になっても、出来る限り住み慣れた地域で生活を継続出来る様にする為に創設されたサービスです。

その中で段原地域包括支援センターを中心にリハビリデイサロン満天が位置付ける 地域密着型通所介護を拠点とし、地域の方々の支えになり安心して生活が送れる様に一役を担う事になります。 * 通所介護＝デイサービス

(2) 地域密着型に成る事の変更点

今までは小規模型通所介護(デイサービス)と呼んでいました。地域密着型通所介護に移行する場合は、地域密着型サービスに位置付けられる為、より一層の地域との連携が求められる事となります。

具体的に、今までの居宅支援サービスと比較し、以下の事が変更となります。

① サービス利用者の制限

原則として広島市の住民(介護保険の被保険者)だけがサービスを御利用出来ます。

② 運営推進会議の設置及び開催

地域との連携と事業所の**運営の透明性**を確保する為に、御利用者様や御家族様、地域住民の代表者様、市区町村の職員様又は地域包括支援センターの職員様、当該サービスについて知見を有する方々等により構成される運営推進会議を設置し、概ね 6 ヶ月に 1 回以上、**活動状況報告し評価を受けると共に、必要な要望、助言を聴く機会を設けなければなりません。(現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ご利用者・参加される方の安全が確保できないため文書等で報告・意見照会を行いました。)**

運営推進会議は当該事業所が御利用者様、御家族様、市区町村職員様、地域住民の代表者様に対し提供しているサービスの内容等を明らかにする事により、事業所による「抱え込み」を防止し、地域に開かれたサービスをする事でサービスの質の確保と向上を目的として設置された次第です。

2. リハビリデイサロン満天 運営活動報告

平成 25 年 3 月に広島県から指定を受けて、小規模型通所介護・予防通所介護として開設致しました。

(平成 29 年 4 月より、現行相当型 1 日デイサービスを追加)

ビジョンとしては自立支援を基に御高齢者が満天の星空の様にキラキラと輝き、生き生きとしたライフスタイルを再構築・維持する為のサードライフを提案し独自の伴奏型サービスを提案する事で社会に貢献致します。

半日型のデイサービスです。入浴、食事の提供はございません。定員は午前 10 名 午後 10 名です。サービス提供時間は午前 9:00～12:10 午後 13:30～16:40 の 3 時間以上 5 時間未満の範囲でサービスを提供しております。

営業日は毎週月曜日から土曜日まで、祝祭日は営業致しております。但し日曜日と年末年始 12/30～1/3 はお休みさせて頂いております。

実施地域、送迎範囲は、南区、中区、東区の一部、安芸区の一部、西区の一部。送迎車 3 台。普通車(5 人乗り、7 人乗り)、軽自動車 1 台、車椅子対応車。

利用状況について、現在 54 名の方に契約して頂いております。要介護、要支援、自費、の方を受け入れております。内訳は、下記表の通りとなっております。

R2/12/29 現在

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	自費	事業対象者
13 名	13 名	17 名	9 名	2 名	0 名	0 名	1 名	0 名

女性	男性
43 名	11 名

勤務する従業者の職種、従業者数についても下記表の通りです。

管理者(兼務)	生活相談員(兼務)	介護職員(兼務)	機能訓練指導員 (理学療法士)	送迎員
1 名	3 名	6 名	1 名	2 名

常勤:4 名 非常勤:5 名 となっております。

・サービス内容等についてはパンフレット等をご覧ください。

3.事例事故報告

大きな事故、ご利用者様に怪我はございませんでしたが、事故防止の為、下記のとおり対応いたしました。

- ・不安定な下駄箱を持たれている方が多く、転倒の危険性がある為、下駄箱を撤去し安全に配慮したレイアウトに変更しました。
- ・下駄箱の前に椅子を置くことにより、立ったままでの脱ぎ履きする方が減り、ヒヤリハットがなくなりました。

4. 新型コロナウイルス感染症予防対策

- ・ 換気がスムーズに出来るように、玄関ドアに網戸を設置して時間を決めて換気を行っています。
- ・ テーブルの配置変更を行い密にならないよう、かつマスクを着用していただき、おやつ等の飲食の際は会話を控えて頂く、距離をとる等の対策を行っています。
- ・ 送迎時には換気の上、状態確認、乗車前の検温を行っています。マスクを忘れた方には、車に常備しているマスクをして頂いています。
- ・ 到着後は手指消毒・手洗いうがいをして、もう一度検温・状態確認しています。
- ・ 新型コロナウイルス対応状況チェックリスト(通所系サービス用)を使用して毎日チェックを行い、消毒をしています。

5. 事例発表

<事例 1>

満天で最後の友達ができ、とのご報告がございました。

きっかけは、娘様が転倒予防教室の広告をみられて、お母さまを説得されて体験されました。

最初はこの年になって新しいところには行きたくないと思われていましたが、同じ席の方が満天の説明をしてくださり安心されて、次回からも同じ席で利用が始まりました。満天で会うことが楽しみになり週2回の利用をされる中、満天の皆様にお友達と一緒ににおやつを作って提供して下さっていました。

週に一回は、満天で漬物を作っておられ、二人でマイ前掛けを付けて、ぬか床をこねてから皆様にふるまってくさっていました。お二人で相談して色々な漬物を試して皆様・職員に提供して下さっていました。

月曜日・金曜日限定で誕生日の方がいる月には、お二人でプレゼントを考えて作って下さっていました。

何度か体調不調で休まれたり、入院となったときには、連絡を取って励ましておりましたが、永眠されてしまいました。

娘様から、満天に行くとお友達がいるから楽しみだ、と話してくさっていたとお聞きしております。

満天のビジョンにありました「自立支援を基に御高齢者が満天の星空の様にキラキラと輝き、生き活きとしたライフスタイルを再構築・維持する為のサードライフを提案し独自の伴奏型サービスを提案する事で社会に貢献致します。」がぴったりでした。

<事例 2>

満天でも意味のある作業で日々の生活が劇的に変化した事例を紹介させていただきます。

この方は軽度認知症の男性。一日型のデイサービスに通っておられます。風呂と食事以外は、ほぼテーブルに臥せっていて、みんなでするレクや体操は何となく参加するだけで活気がありませんでした。ケアマネの調査、趣味歴の聞き取りで、昔、囲碁をやっていたと言う情報は頭の片隅にございました。「そう言えば満天さんには囲碁クラブがあったな」と思い出され、ただ、昔の事でもあるし、認知症も入っているし出来るかどうか、ご家族も、ケアマネもご不安のようでしたが、問い合わせがあり、まずは体験利用をおすすめしました。最初は囲碁を拒否されましたが、見学いただけるよう、対局者の隣に座って頂きました。しばらくご覧になり、「この手は良いですね」と一言発せられました。スタッフが「やってみられます？」と誘うと、対局のテーブルに付かれました。何十年ぶりの囲碁に表情や目つきが変わり、集中され、約1時間の対局で何と勝利された。あの時の表情は今も忘れられません。次の週から週1回の満天利用が決まりました。ご家族より、他の事は忘れてますが、囲碁の事は覚えていますよ、と言って下さり、うれしかったです。今では自ら囲碁をやりたいと他利用者を誘う程、冗談も良く出るし、何より家で食欲が出たり、夜間良眠すると、ご家族も喜んでおられました。その後、満天のご利用を週2回に増やされました。意味のある作業をする事、我々はそこを目指さなくてはならないと改めて強く実感出来、デイサービスで完結するのではなく家での活動量につなげていく事の大切さも改めて実感できました。

<事例 3>

満天では、ケアマネージャー様より、ご利用者様のご紹介にあたって、他のデイサービスを自ら拒否されたり、デイサービス側から断られたりされる方の紹介が多くございます。それが悪いとは思っておりません。人には合う合わないがあると思いますし、断る側のデイサービスにも責任はないと考えています。理由は、情報が来た時点で大変そうな事がたくさん書いてあります。例えば、精神疾患、統合失調症等、物取られ妄想、協調性に欠け、感情のコントロールが難しい、などと記載している例もありました。

ですが満天は断りません。まずは体験していただき、ほとんどの方が利用につながって、満天を気に入られ、長期利用につながり、問題行動も起こっておりません。

他が駄目で、満天は利用が継続出来ている理由を検証してみると、今、職員間同士で共有しているのは、情報の大変さだけにとらわれず、まずは体験して頂いて、その方を見る事、「今」満天に来られているその方を見るようにしています。病気や以前のデイサービスの問題行動を見るのではなく、「今」来ているのその方を見ていく、大人

として見えています。職員とご利用者様と言う関係ではなく、チーム満天の一員として、横の関係として接していく事、ウェルカムの雰囲気、スタッフ、他ご利用者と共に作っている事が、そのご利用者が安心してご利用して頂いている事につながっているのではないかと思います。体験利用者案内人の役割を、他ご利用者様にやってもらう事もあります。例えば満天の細かい説明など、スタッフが説明すると構えたりされる方もいるので、ご利用者様同士だと、安心感があるようです。遠目で見ている、そのように思います。趣味歴は大切にしていおり、なるべくその方の趣味は取り入れるようにしています。もちろん、昔やっていた趣味も行って頂く事もあります。昔を思い出し、それが意味のある作業につながる事があるからです。

<事例 4>

満天囲碁教室に通っているご利用者様。独居で精神疾患もあり参加に至るまで拒否があり、なかなか参加されず、家に閉じこもっておられました。昔の趣味であった囲碁を誘いのネタに、ケアマネージャーとデイスタッフの根気の説得により、とりあえず、一度だけ囲碁をしに体験してみよう、という気になられました。参加してみて、囲碁の先生と対局され、昔の楽しかった囲碁の記憶がよみがえり、週1回の定期利用になりました。参加されて1年間はデイサービスに来られても相談室に閉じこもり、先生だけとの対局でした。ハンドマッサージや体操もされませんでした。囲碁を通じて自信がつき、ハンドマッサージも行われるようになり、体操にも参加されるようになりました。週1回の参加が2回になり、今では週3回のご利用になりました。先生だけとの対局でしたが、今では色々な方と対局され、相談室に閉じこもっていたのも、皆様のテーブルにつかれ、話をされたり、冗談を言われるまでにもなりました。満天に来られ、さらに自信がつき、職員に「私の家の近くに碁会所はないですか？」と聞いてこられました。調べて差しあげて、何力所かご紹介しました。すると自分で連絡を取り、手続きされ、今では、近所の碁会所まで歩いて通われていて、大変楽しまれておられます。満天がきっかけで、外の世界に広がった、意味のある作業を痛感した瞬間でありました。

6. 御意見、御要望等 意見交換

御意見・御要望等は特にございませんでした。